研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-61C		21-073	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption, tobacco smoking, and subsequent risk of renal cell carcinoma: The JPHC study

飲酒、喫煙と腎細胞がんリスク：JPHC 研究

執筆者

Minami T, Inoue M, Sawada N, Yamaji T, Iwasaki M, Tsugane S.

掲載誌

Cancer Sci. 2021 Dec;112(12):5068-5077. doi: 10.1111/cas.15129

キーワード	PMID
コホート研究、疫学、腎細胞がん、アルコール、喫煙	34490717

要　旨

目的：欧米の先行研究では、腎細胞がんのリスクは少量の飲酒者で低いことが示されている。一方、飲酒・喫煙行動や遺伝的感受性が欧米人とアジア人で異なることが指摘されているが、飲酒・喫煙と腎細胞がんについて、アジア人を対象とした疫学研究はこれまで報告がない。本研究では日本人における飲酒・喫煙と腎細胞がん罹患との関連について研究した。

方法：日本国内 10 保健所管内の住民のうち、1990 年と 1993 年から開始した 2 つの追跡調査（JPHC 研究：Cohort Ⅰ、CohortⅡ）に協力の得られた 40～69 歳の男女 106,003 人を 2015 年まで追跡した。飲酒習慣は、飲酒量をエタノール量(g)で換算し、「非飲酒者」、「時々飲む（月に 1～3 日）」、「週に 149g 以下の飲酒」、「週に 150～299g の飲酒」「週に 300～449g の飲酒」「週に 450g 以上の飲酒」に分類した。喫煙習慣は、現在喫煙者における一日あたりの箱数と喫煙年数から喫煙指数を算出し、「非喫煙者」、「過去喫煙者」、「喫煙指数 20 未満の喫煙者」、「喫煙指数 20 以上 40 未満の喫煙者」、「喫煙指数 40 以上の喫煙者」に分類した。「非飲酒者」、「非喫煙者」のグループを基準とし、その他のグループの腎細胞がん罹患について、Cox 比例ハザードモデルを用い、ハザード比（HR）と 95%信頼区間（CI）を算出した。

結果：平均約 19.1 年間の追跡期間中に、106,003 人のうち 340 人が腎細胞がんに罹患した。飲酒するグループで腎細胞がん罹患リスクがわずかに下がったが、有意な差はみられなかった。一方、喫煙習慣では、「喫煙指数 40 以上の喫煙者」（HR 1.50; 95%CI,1.01-2.30）（BMI、既往歴［糖尿病、高血圧、慢性腎臓病］、アルコール摂取量、喫煙で調整）のみ、「非喫煙者」に比べて腎細胞がん罹患リスクが有意に高かった。

結論：日本人の人口集団において、アルコール摂取・喫煙と腎細胞がんの罹患との関連を検討した結果、アルコール摂取との有意な関連は認められず、欧米の先行研究とは異なった。一方、喫煙指数 40 以上の喫煙者で腎細胞がんの発症リスクが有意に高かった。飲酒・喫煙と腎細胞がんのリスクについては、今後さらなる研究が必要である。